令和５年度　自己評価・学校関係者評価

令和６年２月７日

学校法人髙橋文化学園　牛浜幼稚園

１．本園の教育目標

たくましく生きていく力の育成

・丈夫なからだの子どもを育てる

・思いやりのある優しい子どもを育てる

・強い心をもつ子どもを育てる

２．本年度重点的に取り組む目標

「思いやりのある優しい子どもを育てる」

・温かな楽しい体験により、友達の良さを実感し友達を大切にすることにつなげる。

・園児が「大切にされている」という実感をもてるように、地域・保護者との連携に配慮する。

・人や物、自然とのリアルな関りを充実させ、対人スキル向上、命の尊重につなげる。

３．評価項目の達成及び取り組み状況（自己評価）

※本園の教育目標（1,2,3,4)、重点目標（3,5,9,13）に直接関わる項目について、説明しています。

評価項目番号・内容	評価	取り組み状況
1.　本園の教育目標は たくましく生きる力を培う上で大切である。	A	○外遊び、体育では、遊具や鬼ごっこに夢中になる園児の姿が常に見られる。体育では、新しい技に挑戦する園児を根気よく見守る先生の姿が常にある。 ○本年度の園内研修では『人間関係』をテーマに、新しいおもちゃの導入に関わって見られる子ども同士のやりとりとその変容を丁寧に見取った。
2.　教育目標「丈夫な体」を育てるために運動会・外遊びなど楽しめる内容にしている。	B	○プール指導を充実させた。「プール安全見守り」を改訂し、より安全に留意して実施した（年少 11 回・年中 11 回・年長 10 回）。

		○年少では、マット運動の成果を運動会の競技の中で保護者に披露し、園児の達成感を高めることができた。 ○運動会の組体操では、安全第一で、体育講師と担任が連携して、園児個々の課題解決に配慮しながら、練習をした。全ての技を演じ切り、保護者から大きな拍手を頂いた。
3. 教育目標「思いやり」を育てるために人や自然との関わりを大切にしている。	A	○環境に恵まれていて、季節によって木々の変化、植物や作物、虫などに触れやすい。カリキュラムへの落とし込みもあり、子ども達の声に変化も見られている。人との関りにおいても、担任以外の先生から声をかけてもらう機会も多く、大切にされていることを感じやすい環境と言える。
4. 教育目標「強い心」を育てるために運動会などの行事や教育内容を工夫して最後まで頑張る力を育てている。	B	○運動会のパラバルーンでは、体力差、指示理解の差などをスモールステップでの練習により園児自ら乗り越え、息の合った演技を披露した。
5. 園は一人ひとりの子どもを理解し、誠実に保育している。	A	○学年内でもっと一人一人の子どもに対しての理解を深められたら良いと感じる。また個人的に配慮が必要な子への理解を深め、適切な保育をもっとしてあげたいと思う。 ○園児理解（4 月）、市内研修（6 月　特別支援）を受け、子ども一人一人に違う保育上の接し方や手順を工夫している。
9. 園は保護者の相談などに対し誠実に対応している。	B	○保護者の方からの相談を一人で抱えることなく、学年、主幹、園などと相談し、より適切な対応を進めた。
13. 教員は､温かい学級づくりを進めている。	A	○今年度は今までとはまた違う難しさを感じており、温かい学級づくりを意識はしているが、足りていないと感じる。子どもたちが穏やかに過ごせるように工夫したい。

		○なるべく子ども主体で過ごせるようにしたい、おうちのようなアットホーム感があればいいと考えている。幼稚園に行きたいと思ってもらえるよう、子どもの意思を尊重出来る（遊びの中で）ようにしている。

4．（自己評価に基づく）総合的な評価結果

「たくましく生きる力を培う」という本園の柱となる教育目標について・・・A

・「丈夫な体」「思いやり」「強い心」を育てる教育活動を、年間計画、日案を確実に実行しながら実現してきた。

・園庭や畑を最大限活用し、園児の興味・関心を引き出しながら、活動することができていた。

⇒教職員は、子ども一人一人の状態を見極める努力をしつつ、スモールステップで目当てをもたせ、活動を支援した。成長を共に喜び、明日に希望がもてるよう、「挑戦すること」を認め励ましてきた。

「思いやりのある優しい子どもを育てる」という重点目標への取り組みについて・・・A

・園内研修で『人間関係』をテーマに取り組み、各担任が園児の変容を見取ることができた。

・自然との触れ合いをカリキュラムへ落としこみ、横断的な学習を実現した。

・子ども理解の研修を行い、一人一人に適する保育上の接し方や手順を工夫した。

⇒これらの取り組みにより、園児同士、相手を思いやる言葉や行動が少しずつ増えてきている。

「保護者との連携」について・・・B

・保護者の方へは、日々の保育への様々なご協力への感謝が大きい。

・報連相をさらに充実させ、子どもの状況について保護者の方からの情報をしっかり聞き取れるようにしていきたい。

・芋ほりに関する保護者の方のご意見に対し、会議をもち改善案を話し合った。

⇒保護者の方へは、病気や怪我、トラブルについて伝えることが多くなりがちである。成長面についても伝えられるよう、お帰りの際や面談、お便り帳等を通して、さらに発信したい。

5．今後取り組む課題

・『教育目標「思いやり」を育てるために人や自然との関わりを大切にしている。』に関連して、アフターコロナに対応した『地域連携』『地域教材の活用』をすすめたい。子どもたちのより豊かな経験を保証することで、確かな成長を後押ししたいと考える。

・『温かい学級づくり』『子どもの意思の尊重』といったキーワードも生かし、牛浜幼稚園の伝統の上に、教育に向けた教職員の願いを実現するべく、取り組んでいく。

6．学校関係者評価

① 保護者アンケート

A 評価の割合が高い項目「お子さんは、本園の生活を通じて確実に成長している。」(88.6%)

「教職員は明るく熱心である。」(86.7%)

A 評価の割合が低い項目　「園は一人一人の子どもを理解し誠実に保育している」(69.5%)

「園は子どもの様子や活動をホームページなどで分かりやすく伝えている」(67.6%)

〇保護者に教員の熱意は伝わっているが、更なる願いとして、日々の様子をよく知りたい、個別の支援を厚くしてほしいという思いが汲み取れる。

② 外部評価委員会による評価

理事・監事の皆様より評価いただきましたので、お寄せいただいたご意見を掲載いたします。

〇満 3 歳児の学級が追加されたが、計画的に進行され、感謝している。

〇教職員の自己評価における「B」は、少々気になるが、教職員の自己評価は、大賛成である。

〇令和 6 年度の取り組みとして「地域連携の工夫」が挙げられており実施が楽しみである。

〇「思いやりのある優しい子ども」の育成に力を入れてほしい。

〇今回制定の「パワハラ規定」について、全職員が共通認識を持つための研修を実施されたい。